

大阪大学大学院理学研究科における教育入試改革



巻頭言

篠原 厚*

Innovation in Entrance Examination and Education System of
Graduate School of Science, Osaka University

Key Words : Entrance Examination, Education, Motivation in learning

大学のミッションやあり方が問われている中、大阪大学はリサーチユニバーシティとしてその地位を確立するために、その独自性と同時に世界トップレベルの教育研究が求められています。基礎的学問分野の維持発展を進めつつ新しい分野の創成を目指す理学研究科では、ゼロから1を創造するような独創的な基礎研究や長期的スパンの研究が進められています。研究科としては、そのための物理的・精神的な環境整備に努めていますが、特に、大学の最重要ミッションである人材育成につながる教育とその環境整備に重きを置いています。

これまでCOEや多くの教育プログラム予算を獲得し、院生の経済的支援や教育システムの整備を行ってきました。特徴ある理学部コア科目を根付かせ、意欲ある学生をさらにのばす「理数オーナープログラム」、能動的学習姿勢への意識改革を目指す「知的能動性をはぐくむ理学教育プログラム」の実施など、学部教育についてはかなり充実したコンテンツが用意できていると自負しています。また、研究面でも、昨年10月に基礎理学プロジェクト研究センターを創設し、基礎研究の中から大きく発展しつつあるプロジェクト的な研究を支援する体制を整えています。さらに現在、質の保証が問いただされている大学院教育の改革に取り組んでいます。

ここでは、理学部で今年から行う新しい入試制度について簡単に紹介します。国(文科省)としても、

現行の入試制度に多くの課題があることは認識しており、知識偏重型のペーパーテスト中心の入試を、意欲、能力、適正等の多面的、総合的評価による入試へ転換する検討が進められつつあります。理学部ではかなり長期間の慎重な議論を経て、理学部のアドミッションポリシーを少しでも実現する方策として、平成25年度入試から、後期日程試験での募集は行わず、前期日程試験の改革と2種類のAO入試の導入を行うことにしました。前期日程試験の中に、じっくりと論理的に考えることが出来る人を求める「挑戦枠」を新しく設けます。また、新たな「研究奨励AO入試」や「国際科学オリンピックAO入試」(基礎工学部と工学部との共同実施)を実施し、科目知識に偏重しない意欲を見る入試を目指します。これらの新しい入試は少人数の募集ではありますが、理学部にとってチャレンジングなもので、社会(高校生)に対してもメッセージ性のあるものと思っています。

一方で入学試験と卒業時の成績等とは全く相関がないという統計もあります。入学してから如何に意欲を持って学生生活を送るかがポイントで、初年度教育を工夫するべきかとも思いますが、なかなか難しい課題です。昨今の学生の意欲の低下には社会構造的な原因もあるように思えます。高度成長期の常に上向きの社会の前提が崩れており、頑張れば報われるという保証がないことを彼らは知っています。これからの日本の方向、成熟した社会のあり方を真剣に検討し示さなければなりません。教育もこれまでの発想の延長ではだめでしょう。私は、この新しい入試制度で受け入れる少人数のすでに意欲ある学生が、他の学生の意識の質の向上への引き金になり、新しい教育の方向を探る契機となると期待しています。また、理学的素養を持った人材こそが人類的課題の解決に貢献できると確信しています。そのためには、皆様からの多方面からのご意見と息の長いご支援が必要です。



*Atsushi SHINOHARA

1955年5月生
大阪大学大学院理学研究科 博士後期課程(無機及び物理化学専攻)修了(1985年)
現在、大阪大学 大学院 理学研究科 化学専攻 教授 理学研究科長・理学部長 理学博士 核化学・中間子化学
TEL: 06-6850-5415
FAX: 06-6850-5418
E-mail: shino@chem.sci.osaka-u.ac.jp